

平成 29 年度 教育課程編成委員会 議事録 (1 回目)

実施日：平成 29 年 6 月 27 日 (火) 13:30~16:30

(理容科に対する質疑 13 時 30 分~15 時 00 分、美容科に対する質疑 15 時 00 分~16 時 30 分)

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティースクール 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一 (アリアーレビューティースクール 校長)

伊藤秀樹 (中部理容美容教育団体協議会 会長)

田口 豊 (愛知県理容生活衛生同業組合 副理事長)

富田 守 (株さんぽう 名古屋支社 経営企画グループリーダー)

加藤千明 (全日本美容講師会愛知県支部 事務局長)

早川誠人 (学校法人 菊武学園 菊華高等学校 進路指導部長)

山口 孝 (アリアーレビューティースクール 広報主任)

森山郁子 (アリアーレビューティースクール 事務主任)

福本稔巳 (アリアーレビューティースクール 教務主任)

オブザーバー

丹羽 豊 (学校法人 愛知理容学園 副理事長)

堀田和孝 (学校法人 愛知理容学園 理事)

順不同

委員会次第 (概要)

(1) 開会

(2) 学校長挨拶

職業実践専門課程の告示に関する報告とお礼

(3) 委員改選に伴う新委員の自己紹介

(4) 専修学校における学校評価ガイドライン概要の説明

(5) 平成 28 年度自己評価の報告

(6) 教育課程等全般にわたる質疑・討議及び意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。

(詳細は後記のとおり)

(7) 閉会

終わりに、校長から第 2 回目を平成 29 年 12 月 11 日または 12 月 18 日に実施予定である旨を報告。また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

質疑・討議及び意見交換について

職業実践専門課程の運営をする上で、それに相応しい教育に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

○伊藤秀樹 委員

(4)の学修成果で卒業後のキャリア形成への効果をどのように把握されているか。アリアーレの卒業生が私どもの大会にも参加してもらっています。退学者についてはある学校では毎週、いじめ等についてのアンケートを実施しており、生徒の移り変わりの把握に努めている。

(学校側)：在校生も昼間生は1年生・2年生全員が毎年中部理容美容協議会の大会に参加させてもらい、研鑽を積まさせていただきます。卒業生も就職してからも技術大会参加を続けている者が多数おり、貴協議会の大会に参加しています。卒業後の進路の状況等の実績や成果を判断する上で、参考にさせてもらっています。学校が意図している学修成果があがるよう、今後とも教育内容を常に見直し、意識しながら学校運営をしていきます。人は常にサインを発信している。それを感じ取る力を我々が持たないと、同じ問題がずっと続いてしまうので、新2年生のアンケートを始めましたが、活きるようにしていきます。(福本主任より) 退学についての改善はいつも悩むところであり、入学の動機が各学生ちがうので難しいところです。今年度より三者面談を実施し、また技術大会も長い目で見ると参加していたの方が長く理容業・美容業を続けている傾向があり、これからも頑張っていきたい。

○田口 豊 委員

(2) 学校運営ですが、職員会議を今までほとんど行われておらず、今年度より最低月1回との事ですが、現在どのように行われておりますか。指定日等はどのように決めていますか。(また退学率についても質疑あり。愛知県理容組合の加入状況の話にもなる。)

(学校側)：職員会議を実施しておりますが、開催方法に決まり等が無く、実施直前になって日にちと時間が決まるといった感じです。また1回の会議にかかる時間もまちまちです。職員の方から開催依頼があれば回数に関わらず実施しています。(退学率の話題から組合脱退者の話になる。組合では毎年100名を超える方が廃業等の

理由で辞められている。学校で言えば中退者の問題であり、組合に入る理由、アリアールに入る理由を座談する。(堀田オブザーバーから組合に入る理由に国の公庫借り入れメリットが結構大きいとの発言がある。)

○富田 守 委員

(6) 教育環境の部分ですが、インターンシップはどのような仕事をしているのですか。(2)の評価制度については、賞与時に役職者が評価しますが、上司・部下の面談があります。

(学校側)：インターン実習につきましては、愛知県庁に実務実習の届け出をし、行っております。まだ無免許なので当然ですが施術はしておりません。清掃、あいさつからタオル掛けやクロス掛けをしています。また、コミュニケーション力をつけるためお客さまとの会話を持つよう指示しています。お客さまが来店してからお帰りになられるまでの手順を見てくること、学校で学ばなかったことで勉強になったこと、今後の就職にあたって活かせることを見つけるのが目的です。(教務主任 福本より詳細に報告する。)

○加藤千明 委員

まず始めに、自己評価項目に対するそれぞれのコメント等ですが、評価点数ごとにコメントがあるのか、またコメント等もそれぞれ根拠となる資料データ等がないと答えようがない。客観的データをつけてほしい。(4)の退学率ですが、目標・意識をしっかり持たせ、「こうだから、こうしています。」と学校が言えるようにしないといけないと思う。(8)財務に関連して、学生募集ですが、学校の強みとして、理容科・美容科併設校であることをもっと生かしたらどうかと思います。私は現在美容業をしておりますが、これからの時代、理容分野の特性も伸びると思います。(6)美容をする上での施設・設備に問題はないと思います。

(学校側)：評価表の記入に関しては、善処してまいります。加藤委員のおっしゃる部分は、現在当校で取り組んでいる第三者評価では必要な部分です。学校の目的・目標をより具体的に年度の目標、学年目標、学級目標として落とし込んでいくことが必要だと思います。理容・美容併設校の特徴を活かして理容科→美容、美容科→理容の互換授業を提唱していますが、授業実体に関しては授業時間数等まだ課題があります。

○早川誠人 委員

(1) 理念についてですが、弊校の生徒の特徴ですが、自分に自信がない子が多いので、「私はバカだからできない」等の何か目標を持たせるとマイナス発言が多い。そんな時は「バカは入学させていない。」と伝えます。また難しい言葉ではなく、生徒が関心を持つような言い回しをしています。(8) 財務に関して、学費ですが、高くても、安くても丁寧に表現しないと募集は続かないと思います。特に安くうたう時は注意が必要で、結局入学してからたくさん費用がかかれば不評になる。最終的に親の意見ですし、あらゆる事で、おかしな事があると SNS ですぐに広がりますので悪影響が出ます。職員会議は毎週木曜日、学年会も週 1 回あります。生徒が少なくなると学校が無くなるのは全教職員わかりきったことなので、あまり教員に法人数値に関していうことではない。数字を言ったら (10 年ぐらい前) モチベーションが下がったことがありました。教員は生徒とのふれあいが楽しくてやっている面が多いため、現状は財務に対する共有はその程度です。

(学校側) : 色々ご意見ありがとうございます。理念の伝え方等 (教員にも、生徒にも)、活かし方は模索しながら行っていきます。風評については、今はすぐに伝わるので、生徒・保護者・高校の先生との信頼関係をきちんと今まで以上に構築できるよう努めていきます。

以上
記録 : 山口

平成 29 年度 教育課程編成委員会 議事録 (2 回目)

実施日：平成 29 年 12 月 11 日 (月) 13:30~16:30

(理容科に対する質疑 13 時 30 分~15 時 00 分、美容科に対する質疑 15 時 00 分~16 時 30 分)

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティィー専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一 (アリアーレビューティィー専門学校 校長)
伊藤秀樹 (中部理容美容教育団体協議会 会長)
田口 豊 (愛知県理容生活衛生同業組合 副理事長)
富田 守 (株さんぽう 名古屋支社 経営企画グループリーダー)
加藤千明 (全日本美容講師会愛知県支部 事務局長)
早川誠人 (学校法人 菊武学園 菊華高等学校 進路指導部長)
山口 孝 (アリアーレビューティィー専門学校 広報主任)
森山郁子 (アリアーレビューティィー専門学校 事務主任)
福本稔巳 (アリアーレビューティィー専門学校 教務主任)

オブザーバー

丹羽 豊 (学校法人 愛知理容学園 副理事長)

順不同

委員会次第 (概要)

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 専修学校の概要 (学生数・18 歳人口・分野別学生数・職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上、学校評価・情報公開等について)
- (4) 科学技術学園高等学校連携協力について (連携協力に関する基本合意書)
- (5) 専修学校第三者評価実施報告について (専修学校職業実践専門課程第三者評価試行評価基準要綱、入学者卒業生アンケート等分析評価)
- (6) 前回会議からのフィードバック
- (7) その他意見交換
各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。
(詳細は後記のとおり)
- (8) 閉会
終わりに、校長から平成 30 年度も今年度同様 2 回にわたり、会議を開催したい旨の報告。(日程は後日お知らせする。) また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

次第(3)(4)(5)を通じての質疑応答

○伊藤秀樹 委員

第三者評価機構から理事間及び教職員間での「情報共有がない」と指摘されたそうだが、各教職員それぞれの仕事を覚える。それが「共有」に繋がると思う。入学生・卒業生アンケートの結果であるが、例えば学生に対して何か語り掛ける時、ポジティブな人向けに話しても、ポジティブの低い人にはわからない。そこにカウンセリングの必要性が出てくると思う。学校側としての見解はどうですか。

(学校側)：情報共有に関しては、以前からの課題ですが、職員会議がほとんど開催されず(今年度も4月3日に一度だけ)5分程度の朝礼だけでは補え切れないのは当然とっております。人事異動はほとんどないため、他の職員の仕事の進捗等は部下でない限りわかりません。「他の人」が携わっていることに「関心が無い」とか「時間を費やすのはイヤ」ということは、教職員間では無いと思います。学生は入学時には「やる気」はあるが「技術が無い」。しかし時間が経つとそれが逆転し、「技術は覚えていくが、モチベーションが下がる。」傾向があります。そこを軽率に考えていると退学にも繋がっていきます。保護者会等でフォローアップしています。

○田口 豊 委員

アンケート結果ですが、卒業生・在校生当事者から「良い学校」と思われたいとだめだと思えます。いくら外部発信したって生徒は来ない。一生懸命やっていると言ってもそれは愚痴である。他の学校等で良いと思ったことはマネをするところから始めてもいいと思えます。

(学校側)：アンケートに関しましては、毎回調査をする前に、調査を行う意図を伝えて、動機付けを行っています。例えば、「学校の運営を良くする目的で行っています。」「ひいては学生皆さんや後輩のためにもなります。」「皆さんの正直な意見が聞きたいと思っています。」と伝えていきます。また安心して回答してもらえるよう個人が特定されないこともアナウンスしています。あまり考え込まず、直感的に回答してもらっています。該当の設問については、原則全て記入してもらっています。総所要時間は30分ぐらいです。広報して入学してもらっても、なかなか2年間で

満足してもらえていないのは事実として受け止めています。さらなる改善と卒業後に「あの時教えてもらってよかった。」と後からでも感じてもらえるよう、卒業後の調査もしっかりやっていくしくみを現在構築しています。

○富田 守 委員

卒業生等声掛けが今の課題との事ですが、現在、オープンキャンパス・体験入学の動員はどうか。第三者評価機構から外部発信が弱いとの意見も出たそうですが、どのようにお考えですか。

(学校側)：体験入学に関しましては、平成 29 年は前年（平成 28 年）の 75%で、2 年前の約半分です。これが翌年の入学者にも当然反映しており、美容科に関してお伝えすると、1 年生は 2 年生の 50%、来年度入学者はさらにその 50%というのが現状です。体験入学者に対する出願の割合ですが、理容科・美容科合わせて約 40%です。ただ理容科と美容科別に考えると違いがあると思います。外部発信についてですが、フェイスブックは毎日更新しておりますが、ラインやツイッターはほとんど実施できていません。一応、ラインに関しては週 1 回クラス教室からということに教員側にはお願いしておりますが、忙しいのか？理由は判然としませんがやっていません。これらができて+αとして他の情報媒体との契約はどうかと考えています。

○加藤千明 委員

卒業生アンケートの結果、学校全体の満足度及び「本校を勧めたい」という問いが 43.8%しかいない現実に対して、原因は何かとお考えですか。オープンキャンパス・体験入学のリピート率はどれくらいありますか。

(学校側)：「本校を勧めない」原因として、第三者評価機構からも指摘されたことではあるのですが、第三者委員会での卒業生・在校生面談の際、声として「授業中先生がいない」という声があったそうです。(責任者最終面談の際、指摘を受けました。) また「通知表等成績表をもらっていない。」という声も。先生がいないというのは、1 回、2 回ではなく、おそらく何回かあったのではないかと思います。成績表も各学期毎にテストの点数を記入して渡しているのですが、それを成績表と（気持的に）受け取っていない。我々からすると「している」のに、学生からすると「やってもらっていない」という側面がある。そこに原因があるのかもしれませんが。また以前当会議においても、「パンフ内容と実際が違う」と指摘されたことがありました。何か大きなイベント等ではなく、日々の授業や計画して約束したことの大切さから見直す必要があると思います。体験入学のリピート率は今すぐ正しい

ことは言えませんが、複数回来てくれた高校生はほとんど入学に至っていると思います。

○早川誠人 委員

私どもの高校では美容系希望者の数はそれほど変わっていません。名古屋駅のある美容専門学校では1度体験入学に行くと、すごく熱心に呼び込みられるようで他校を見に行かす隙を与えないくらいに抱え込みが激しい。本校としては色々な学校を見に行きなさいと言うのですが、そうさせてくれない。高校の想いと専門学校の想いの違いを感じる。生徒はイメージから入りやすいので、ポスター等も奇抜な感じで、写真が大きいといいかもしれません。学校内の問題点は、中の人がよくわかっていると思います。その人たちの意見にいかにか上役が応えるかという事ではないですか。

(学校側)：高校生にインパクトを与える上でポスターやパンフレットの表紙の使い方は注意しなければならないと思います。(冨田委員から名古屋総合美容専門学校のパンフレットが高校生から評判がいいとの話がでる。)パンフレットも以前は36ページほどありましたが、現在は24ページ前後で作成しています。(あまり読んで、見てくれないのでページ数を減らしました。)教職員も個人レベルでは学校の「価値」を上げる努力をしていると思いますが、組織体等その他の部分ではどうなのかはわかりません。

各委員からの意見を拝聴後、教職員委員選出として意見表明

○森山郁子 委員

学校長(学校責任者)が学校の目的・目標に沿って導いてくれないことには、方向性が定まらない。それがあってパンフレット作成であり、オープンキャンパスであると思います。

○福本稔巳 委員

学生には1人1人技術力が違い、それぞれに合った指導をしています。教職員が楽しく仕事ができているのか?そこが反省であり基本にあると思います。

以上
記録・山口